

(続 森口鶴松。〈 〉内は筆者補入。句読点筆者)

此理を以て一ツ日の元庄屋敷の、勤めの場所ハよの元や、と申しますので御ざります。

二ツ ふしぎな勤め場所わ唯(マ?)に頼みわ掛けんでな、と申まするわ、めづらし勤め場所わ、唯れに頼みわ掛けんでなとわ、皆世界の間人が、此の一ツ目の通りで御座り舛して、此本部でわ楽(神楽)らをかずきて御勤め被成る処の、此めづらし勤めの理を聞き、又十二下の」(18オ)

理を聞きし口世界の間人わかんしんを致して、なる程、日の元庄屋敷の本部の教ゑ、善き教ゑで有ると言ふて、世界の間人ハ皆、本部を参りを致しませねばならんと言ふて、世界の間人が皆、参るので御座ります。此の神様、又教祖様ヨリ、世界の間人に参りて被被(被下)と頼みたのでない。此無世界無人間を御拵へ被下た神様斗り、此神様が御あらわれ被成で、皆本部へ参ろへと言ふて、皆参りを致するので御ざります。何も世界の間人に、だれど参りて被下と頼みたのやないと申なさる」(18ウ)ので御ざり舛。此理を以て、二ツふしぎな勤め場所をわ、唯れに頼みハ掛けねども、と申舛ので御ざります。

三ツ 皆世界が寄ようて、出来立ち来たるが是れふしぎ、と申舛るハ、皆世界の間人に、をれを神様とあがめてくれと、頼んだ事わない。此拾柱の神様が、教祖様の躰をやしろにして、天よりあま下りて、界世の間人心なをしの嘶しを致し被成るので御座ります。此神様の御嘶を聞きて、心を入れ替へ、心を入れけるに付て、神様の御嘶の理をわかりてくるので御座り舛。」(19オ)

わかりてくるに付て、どうも此神様の教ゑわ善き教ゑで有る。嘶一条で我心を直せば、病を直し被降、是れでこそ、大和國山辺群の日の元庄屋敷の本部に参りて有る人間が参るのでござります。又、日の元庄屋敷にわ、此世の親神様が有ると言ふて、世界の間人が参りに行くのが、是れがふしぎで有と申なさるのでござります。此理を以て、三ツ皆世界がと寄ようて、でき立ちきたるが是れふしぎと申舛のでござります。

四ツ ようへこゝまでついて来た、実の助けわ是れ」(19ウ)からやと申ます。此神様の御嘶を聞きて、神道に付き、神道にゝわ神様の道でござります。此神様の道に付てきたなれば、人間身の内わどこふじゆなきようにして、自由由自在になるように、神様がごしゆうすると、申なさるのでござり舛。是が実の助けをするのや程にと申しますのでござり舛。此理を以て、四ツようへこゝ迄でついて来た、実の助けハ是れからやと申しますのでござります。

五ツ いつも笑われそしられて、めづらし」(20オ)

た助けをする程にと申まするわ、いつも我れの事を笑ゑ、我れの事申まするわ、此神様の事とござります。神様の事を笑たり、そしたり、こぼちたりする人が、世界に沢山ござります。世界の間人が笑たそしたり、こぼちたり、種々に言ふたかて、腹が違て人程に世界の間人ハ、皆我子で有るのやと、天の月日様が申なさるのでござります。皆子が寄りあつまりて、親の事を言ふて居斗りて有るのや程にと、申なさるのでござります。」(20ウ)

何程笑をが、そしろうが、又、何程こぼちていたとて、誠の嘶を聞きて、心さい入れ替へさゑすれば、末でわめづらし助けを

してやる程にと、申なさるのでござります。又、外の道わ、人にほめられ人のうけを取りて、しゆせいするのでござりましよ。なれ共、此神様の御道わ人にわらハれて、しゆせいするの御ざります。此教祖様ハとうで有舛が、人に笑われても、そしられても心を替わたさずして、いつへ迄でも、神様の御道を御通り」(21オ)

被成たので、今わ神にも成られて、大井なる御しゆせをしてこさるので有舛。すれば人が笑をが、そしろうが種々に言うてこほとうが、此神様をしんへして、しんへわ誠の心でござります。誠の心の神様の道でござります。因で人がとのような事ゆうたかて、其心に成ずして、神の道を通りているなれば、どこふじゆなしに、末でわめづらししたすけするほどにと、此神様が申なさるのでござります。此理を以て、五ツいつもハラ」(21ウ)われそしられて、末でわめづらし助けするほどにと申しますのでござります。

六ツ 無理な願わしてくれな一筋心になりてこい、と申まするわ、その悪しき心を以て頼みたとも、神が受取らんやほどにと、申なさるのでござります。其悪しき心をすてしまし、只一筋の善き道お心に以て、家内わむつましゆ、中よく致して掛けし頼みわ、神が聞きゝ、受取りてやろうと、申なさるので」(22オ)

ござります。此善き道お心に以て、只一筋になりて、神に頼みにこい、頼みにくるなれば、神が受取りて聞きてやろと、申なさるので」ござります。此りを以て、六ツむりな願わしてくれな、一筋心になりてこいと申しますのでござります。

七ツ なんでもこれから一筋に、神にもたれていきますと申、なんでもこれから悪しき心お捨てしまし、善き道お心に以て、只一筋になりて、此神様の心に以て、只一筋になりて、此」(22ウ)神様の心にもたれて、内々中ようくらすと、ゆうのでござります。此りお以て、七ツなんでもこれから一筋に、神にもたれてゆきますと申しますのでござります。

八ツ やむほとつらい事ハない、私しもこれからひのきしん、と申ます。病程つらい物わござりません。何程金がたくさんあり、又ちよじやても、病をやんでいれば、我身わちよしやとゆゑん。何程ひんかでも、病おやます、我が身わじゆよ自在にうごかれ」(23オ)

是わがちよじやで有る程にと、神様が申なさるのでござります。此病やむ程つらい事ハないやろ、たいていのつらい、しんぼうわできる。けれども、此病のつらいしんぼうわ、できませんのでござります。病の根を切りてほしくば、ひのきしんお、いたせと申なさるのでござります。そこで、私もこれからひのきしんと申しますのでござります。此ひのきしんとゆわ、我が心のひのきしんでござります、とうゆうわけ」(23ウ)

ゆたなれば、我が身の元の悪しき心おすてしまし、善き心と改良しき、我が内の家内わ中よく暮し、又悪くな心の人があれば、善き心になれるようにして、神の道、神の道わ誠の心でござります。此誠の道をして、通るのがひのきしんでござります。此りお以て、八ツ病むほどつらい事わない、私もこれからひのきしんと申しますので御ざります。

九ツ こゝまでしんへごしたけれど、元の」(24オ)  
神とわしらなんだ、と申まするわ、いまゝでから萬の神様おしんじんしたけれど、元の神様がたちかへりて、此世無世界人間を拵ゑて被下た、元の神様とゆう事わ知らなんだのであります。此りお以て、九ツこゝまでしんじんしたけれど、元の神とわしらなんだと申すのでござります。

十ど 此度あらわれた、実の神にわそをいないと申まするわ、前の九ツのりの通りで」(24ウ)  
ござります。いまゝでから萬ずの神様おしんじんしていたけれど、元の神様が、元此よ、無き世界なき人げんを拵ゑて被下た神様とわ、しらなんだけれども、十ど此度、大和国山辺郡日の元庄屋敷へあらわれたのでござります。御あらわれになりたのが、十柱の神様でござります。十柱の神様一どによびだして、しんへごするのわ天理王の命様でござります。今迄しんじん致して居たけれども」(25オ)

どれが親神様やら、此よ無世界無人間を御こしらへ被下ときわ、人間のしながたにおなり被下た神様が、どの神様やらしらなんだので有るけれども、段々此の神様の説教、又わ御嚙を聞かして貰て、付て天の月日兩人わ親神様。八柱の神様わ、人間のしながたになりて被下た神様で有る。又、八柱の神様わ実のしながたにおなり被下た神様で有る。此十人の神様わ、此よ無世界人げんお」(25ウ)

拵ゑて被下た神様にわちがへない。其ほかの神様、皆此よで誠このをつくした人が、皆神様にゆわいこめてあるのでござります。此十柱の神様わ十人の神様がじつの神様にちかへわない、とゆう理でござります。此りを以て十をど此度あらわれた、じつの神にわそをいないと、申ますので御座ります。

#### 四下り目

一ツ 人が何事言ヲとも神が見て入ル」(26オ)  
気をしづめ、と申まするわ、人がどのような悪しき事がゆうおとも、神が見ているほどに、其ような事をゆう物わ、心が悪しき心で有るからかへるわ、口からとゆうて我がみの悪くな心の事を、口ゑ出しているやほどに。善き心なれば、善き教ゑお聞けば、成程と思うて、腹にゑとくする物が無いのやぼとに。世界の人間がどのような悪しき事言ふをと、神が見ている、神が見て人間の心通りごしうごう、ごうしてやると、此神様が申なさるのでござります。人がどのような悪くな」(26ウ)

事言ふたとも、其の人のような心にならずして、我身わ日々日月日兩人、八柱の神様の事おわすれず、内々わ中よういたし、たがいなたてやい、助けやいの道お通っていたなれば、此神様も、其心になりて、自由自在に、どこ不自由なきようにしゆごしてやるほどに、神様が申なさるのでござります。自由自在にうごかれる、又何も不自由せんようになりたなれば、我思っている通りにできてくるし、したなれば、いつでも気をおちつかして、いそへ面自おをかしく、家内が皆其心で暮さるで」(27オ) ござりましよ。此りお以て、一ツ人が何事言ふとも、神が見ている気をしづめと、申まするのでござります。

二ツ ふたりの心お定めいよ、なにかの事おもあらわれる、と申まするわ、二人の心はふうへ心の心でござります。夫婦が揃

ふて誠の心になりて、中よく致して、人にお互いに立てやい助けやいの心になりて、日々其心と定めて、暮して居たなれば、神様も、其通りの心になりて、ごしうごうつくし被下て、躰た自由自在にうごかるし、又何も不自由せぬようになるのでござります。」(27ウ)

勝又、此通りの心になりていたなればくか何と申ます。あこの婦夫は心のよきよう、うまれた人や、たれがいきましても、かげへだてをせずして、何かの事も気を付て被下る。あこのふうふわ、よう生れた人やと申ますでしよ。すれば心に思っているひかりわ、あらはれてきますのでござりますが、此御方の心わ世界の間人なんきする人を助けたい物や。悪しき心の人わ、善き心にならしたい物やと思ふて、誠の道を通りてござりたので有舛。此教祖様わ」(28オ)

人に助けおいたし人が、どのようないやな事お、いうとも耳に聞かずして、善き心をかわざずして、又人の言ふ事が、教祖様が御聞きになりませんのでござります。なんほゆうても、聞き入れないに付て、ついにわ警察が教祖様くゝりにきて、連れていんた事もござりました。警察がくゝるときに、教祖様が歌読むなされたのでござります。何と言ふ歌と申ましたなれば、

なればこれ くゝられるも

よきこゝちする

これもみくにの ためとなるかな

と申ます、ふたよみなされたのでござります。くゝられてゆくも、善ききもちする。是れも世界の人間の、心なをしの道具になると、教祖様が申なされたのでござります。此通りに、人にいやらしき」(29オ)

事ゆわれても、くゝられても、心かわさずして、世界の人間を助けたい。心お入れかへさしたい物やと思ふて、誠の心お日々御さぎめござりたから、だれ申すとなるく、天理にかなない、天ねんしぜんに、教祖様がどうなさる事おわかりて来て、今わどうでござりますか。教祖様を神様とあかめて、世界の人間が御臺〈墓〉所へ御参詣なさるのでござりましよ。すれば教祖様も元わ世界の人間でござりましよ。」(29ウ)

我々共も世界の人間でござります。たとゑにも申す事がござります。人がしている事お見て来て、内へかへりて我が身が其見て来た事を見る。見て来た通りに出来んと申舛よ。すれば教祖様が人間なれば、我々共も、人間で御さりましよ。なれば此教祖様の通り被成た道を通らん出申事がござりましよまい。此教祖様の如くで有舛て、人がどの様な事をゆうをと、悪くな心に気をうつさずして、善き心と定めていたなれば、天理にかなうて」(30オ)

天より幸福をあたゑて貰ひ、しぜんに人にすかれ、我が身の光りがあらわれてくるので御ざりましよ。此理を以て、二ツふたりの心を定めいよ、何かの事をもあらわれる、と申まするので御ざります。

三ツ 皆見て居よそばな物、神のする事を、と申しまするわ、皆見ていなされ、そばなしう。此十柱の神様がしゆごう致して被下る通りの事を、我々共が断お神様より、取告がして貰て居るので御」(30ウ) 御ざります。